

第72回原子力委員会臨時会議議事録（案）

1. 日 時 2000年11月24日（金）10:30～11:30

2. 場 所 委員会会議室

3. 出席者 大島原子力委員長
藤家委員長代理、依田委員、還藤委員、木元委員
（事務局等）科学技術庁
原子力局
中澤原子力局長
原子力調査室 伊藤室長、山越、小室
国際協力・保障措置課 関根補佐、浜崎
動力炉開発課 坂口補佐
通商産業省
藤富審議官
原子力発電課 入江課長、牧野企画官、中村補佐
吉舖専門委員

4. 議 題

- （1）「原子力の研究、開発及び利用に関する長期計画」（案）について
- （2）第1回アジア原子力協力フォーラムの結果について
- （3）その他

5. 配布資料

- 資料1 新たな原子力の研究、開発及び利用に関する長期計画について（案）
- 資料2-1 第1回アジア原子力協力フォーラムの結果について
- 資料2-2 「新しい原子力長計案の紹介」について

6. 審議事項

- （1）「原子力の研究、開発及び利用に関する長期計画」（案）について
標記の件について、大島委員長より

原子力委員会としては、今後、長期計画に示された理念と政策を如何に国民の皆様にご理解いただくか、また、施策としてどう確実に実行していくかが重要と考えますので、原子力委員会としても適時適切に状況把握を実施し、評価を行っていきたい。

とのコメントがあり、また各委員とも案について異義がなく、了承された。

(2) 第1回アジア原子力協力フォーラムの結果について

標記の件について、国際協力・保障措置課から資料2-1、2-2に基づき説明があった。

- ・長期計画の説明は、OHPを使って40分間アジアの関心がありそうなところを説明し、その後、30分間各国からのコメントがあった。
- ・今までになく各国が自由に議論できるようになったと聞くが、今まではそうではなかったのか。
- ・これまではどちらかと言うと各国のカントリーステイトメントのみであったが、今回は、共通関心事項をピックアップして円卓討議をした。これが上手くいったという感触があった。また、大島大臣から原賠制度の重要性が指摘されたのを受け、東アジアにおいては原賠制度がまだ未成熟であり、現状把握をした上で議論をしたらどうかとの提案を行った。原賠制度を持っている国から報告をしてもらいそれを一つのベースとして議論を行っていきたい。また、FNCAをRCAや2国間協力と上手く組み合わせていけないだろうかと思う。来年からはもう少し議論が行えるよう工夫が必要な感じがした。
- ・それはテーマを絞るということか。
- ・若干テーマを絞りたい。
- ・EUが原子力発電から後退するという点については議論があったのか。
- ・アジアは原子力発電については2分された状態である。発電分野については日本、韓国、中国、ベトナムの4ヶ国が中心となって話す場があった方がよい。
- ・台湾について話が出たのか。
- ・特になかった。中国が参加していることもあり、台湾の扱いは慎重にすることが必要。
- ・アジアの範囲はどのようにするのか。対象国それぞれの原子力利用の程度に差があるため、全部を対象にすると最大公約数的なテーマになってしまう。全部でなくても関心国のみによる小グループでの協力というものも今後は考えていく。また、参加国については当分このままで、参加希望がもしあれば、とりあえず分科会へのオブザーバーとしての出席にすることも考えられる。
- ・新長計の発表に対して各国のコメントがある中で、ベトナムからは発言がなかったのか。

(国際協力・保障措置課) ベトナムからの発言はなかった。

等の委員の意見及び質疑応答があった。

なお、事務局より、次回は11月28日(火)に定例会議を10:30より開催する方向で調整したい旨、発言があった。